



教育目標
未来を拓く
生徒の育成

こととい



別海町立西春別中学校 学校だより 最終号 令和8年3月24日発行 発行責任者 校長 綾野 正巳

去りゆけど 心の花は咲き続け 名は消ゆるとも 想いは残る

西春別中学校長 綾野 正巳

昭和22年に開校した西春別中学校は、令和8年3月をもちまして、その長い歴史に幕を下ろすこととなりました。これまで本校を支えてくださった地域の皆さま、保護者の皆さま、そして卒業生の皆さまに、心より感謝申し上げます。

長い年月の中で、西春別中学校は数えきれないほどの笑顔や挑戦、友情、学びに満ちた時間を生み出してきました。校舎を吹き抜ける風、体育館に響く声、教室の窓から眺める景色…その一つひとつが私たちにとってかけがえのない思い出です。西春別中学校は閉校しますが、ここで育まれた想いはこれからも残り続けます。この学び舎で過ごしたすべての人の胸の中に、確かな灯としてともし続けることでしょう。

そして、この場所で積み重ねた日々が、これからの人生に豊かな実りをもたらしてくれることを願っています。ありがとうございました。

みんなちがって みんなつらい (式辞より)

今日は私から最後のメッセージを二つ送ります。

一つ目、互いの違いを受け入れ、誰かの「つらさ」に寄り添える人になってください。

金子みすゞさんの詩『私と小鳥と鈴と』の最後の一文「みんなちがって、みんないい」という言葉は、個性を尊重する大切さを教えてくれます。しかし現実には、その言葉を実践することは決して簡単ではありません。

最近、芸能人のあのちゃんが書いた『哲学なんていらぬ哲学』という著書の中には、「みんなちがって みんなつらい」という言葉があります。十代のみなさんには、この言葉の方が共感できるかもしれません。私たちは、つい「同じであること」に安心を求めることが多く、自分との違いを受け入れにくい場面もあります。

人は皆、異なる背景をもち、異なる悩みを抱えています。

だからこそ、誰かの“ちがい”を受け入れ、誰かの“つらさ”に寄り添い、そっと手を差し伸べられる人になってください。

二つ目、新しい一歩を踏み出す勇気を、いつまでも持ち続けてください。

「最後の成功も、最初の小さな一歩から。」

みなさんが踏み出すその一歩が未来を大きく変えていきます。どうか、勇気を持って歩み出してください。



校訓 自主 友愛 有能